

1 活動名 空港活性化政策について（伊丹市）

2 調査の目的

- (1) 松本空港の活性化と国際便についての聞き取り
- (2) 松本空港に利活用できるものがあるか
- (3) 空港の活性化と騒音対策など

3 調査地選定理由

- (1) 伊丹空港（兵庫県伊丹市・大阪府豊中市・大阪府池田市）

松本空港発足当時就航していた伊丹空港は、現在は8月限定で就航している。今後、通年化できれば、関西への利便性や、乗り継ぎに有効と思われるので現地での状況を調査したい。

4 調査結果

- (1) 実施日 平成29年6月29日
- (2) 出席者 7名 青木豊子、芝山稔、上條温、青木崇、今井ゆうすけ、川久保文良、草間錦也
- (3) 伊丹市（平成29年6月29日10:00～12:00）

成果・所感

伊丹空港は、昭和14年大阪第2飛工場として開場。滑走路は2つあり、27路線1日当たり370回の発着回数で、28年度の旅客数は1510万人の利用がある。

平成23年より増加傾向にある。しかし、過去の歴史は騒音に悩まされ、「大阪国際空港撤去都市」宣言まで出された。平成6年に関西国際空港が開港したが、関空だけでは航空需要を賄えない為、国の責任において環境基準と安全の確保に最大の配慮をすることで、共存に至っている。また、航空機の騒音が技術とともに減少し、空港と共存する都市として、方向転換することにより、航空機が見える公園などを作り、空港が飛行機に乗る、見送るだけの施設ではなく、飛行機に乗らなくても家族連れが楽しめる目的地としての集客施設となって来た。平成28年には、関空と経営統合をはかるため、国は管理運営のための運営権を44年間民間会社SPC（オリックス、ヴァンシエアポートコンソーシアム）に売却した。さらに、旅客・発着数は増加傾向にあるが、航空機の低騒音機材へのシフトについて航空会社に働きかけることによって、空港を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

空港は、周辺住民からとってみれば、ある意味迷惑施設であるが、騒音と安全面がクリアできれば、経済効果を上げ、賑わいを創生できる様々な事業が考えられる。松本空港も観光の資源として活用できるのではないかと感じた。

5 政務活動費

- (1) 使途項目 調査旅費
- (2) 支出額 467,340円(日当9,000円、宿泊費29,600円、交通費39,290円)×6人

—以 上—

※今井議員は政務活動費不使用。